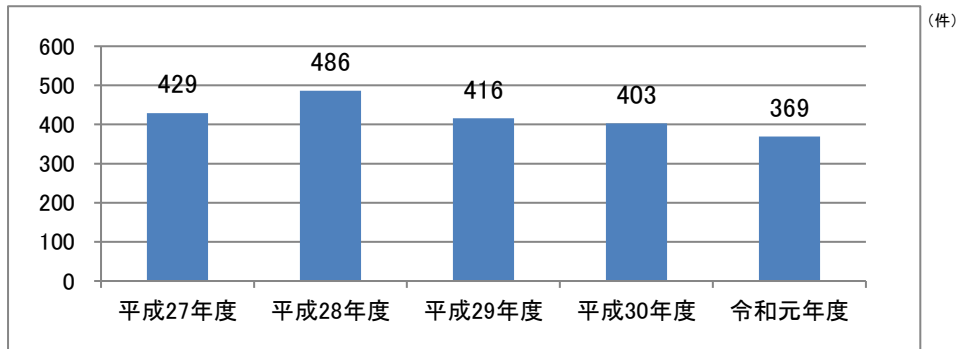


18 術中迅速病理組織診断件数

○項目の解説

正確で迅速な病理診断は、悪性腫瘍などの病巣切除の適否または切除範囲を決定するため、手術中に必要となることがあります。そのためには、限られた時間内に切除された標本を処理し、迅速かつ正確な診断のできる熟練病理医と設備が病院内に必要となります。件数が増加するほど、これらの機能が充実していることを表現しています。

○当院の実績



○当院の自己点検評価

数年前から、医学的エビデンスにより不要といわれている症例の術中迅速病理組織検査をなくすように努力しており、平成28年度をピークに減少傾向が見られます。一般に、適応外症例の術中迅速検査は、無駄な医療費の増加、正確な最終病理診断の妨げとなり、その適応は十分に吟味されないといけません。

本年度も、症例によって凍結病理標本を作製せず細胞診のみで術中診断を施行し、また、肉眼的に明らかな症例は術中の病理・細胞診断検査は行わず、Gross only(肉眼診断)のみの術中診断を施行するなど、正確で、迅速、低コストの診断を心掛けました。

○定義

医科診療報酬点数表における、「N003 術中迅速病理組織標本作製(T-M/OP)、N003-2 術中迅速細胞診」の算定件数です。

○算式

実数